

平成28年度 今治市障害者文化体育施設指定管理者モニタリング結果

施設名	今治市障害者文化体育施設
所在地	今治市喜田村二丁目1番10号
指定管理者	<p>名称 社会福祉法人 来島会</p> <p>代表者 理事長 越智 一博</p> <p>住所 今治市北宝来町二丁目2番地12</p>
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理業務の課題ごとに、指定管理者による自己評価及び市による評価結果を取りまとめました。</p>
担当部課(問合せ先)	<p>健康福祉部 障がい福祉課</p> <p>TEL: 0898-36-1527</p> <p>E-mail: syougai-fukus@imabari-city.jp</p>

評価内容

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
総則	A	<p>全職員に条例・規則・仕様書を熟読させ、不明な点は所長より説明を行いました。また、施設の設置目的や指定管理制度についても職員ミーティングや研修を通して、全職員が共通認識を持って業務にあたりました。利用者に対しては、講座受付時や利用抽選時等で施設の設置目的等を繰り返し説明させていただくとともに、館内掲示等にて情報を発信し、障がい者の活動にご理解・ご協力をいただきました。</p>	A	<p>施設の設置目的や管理運営方針等を理解して運営しています。</p>
利用状況	A	<p>○数値から見て</p> <p>総利用人員は、昨年度より3,418人増加しました。内障がい者利用者数も、昨年度より1,707人増加し、障がい者割合が1.3%増加しました。</p> <p>○背景から見て</p> <p>障がい者利用については、団体利用が増加しており、その背景には、2017年の愛顔つなぐえひめ大会の開催が間近に迫っていることが挙げられ、殆どの競技種目団体が施設を定期的に利用している状況です。また、多目的室の利用については、新たにカラオケやサウンドテーブルテニス等の利用が増えたことにより、昨年度を大幅に上回る増加となっています。障がい者割合についても、目標としていた20%を達成しました。総利用人員についても、目標としていた75,000人を上回っていますが、さらなる障がい者利用の増加を目指していく中で、一般利用が減少することも考えられますが、効率の良い施設利用に努め、現状を維持していきたいと思っています。</p>	A	<p>前年度より障がい者、健常者ともに増加し、目標としていた総利用者数75,000人及び障がい者割合20%を達成しています。</p> <p>アリーナやアーチェリー施設だけでなく他の施設の利用も増加し、十分に活用できています。</p> <p>2017年の愛顔つなぐえひめ大会後の利用が引き続き維持できるかが今後の課題となります。</p>
事業収支	A	<p>施設利用料については、全額市へ納入しました。経費節減に努め、お客様からご要望をいただいているものや経年劣化等により修繕が必要なものに可能な限り経費を充て、お客様に還元しました。経理業務については、施設の事務担当者として法人本部の事務担当者が連携し、効率的かつ正確な経理処理に努めました。</p>	A	<p>前年度に比べ収入増・支出増となり期別収支額もプラスとなっています。事業運営が適切になされていると評価できます。今後も健全な事業運営に努めてください。</p>

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
管理運営体制	A	<p>○人員配置</p> <p>事務員はお客様への更なる接遇向上のため、引き続き2名体制とし、給与等の支払い事務等については、法人本部の担当者が実施し、簡素化・効率化を図りました。スポーツ指導員は3名配置とし、事務員1名を含め、障がい者スポーツ指導員は4名体制としました。</p> <p>○有資格者の配置</p> <p>障がい者スポーツ指導員、上級体育施設管理士、防火管理者、限定インストラクター等の資格を有する職員を配置し、スポーツ指導、窓口対応、緊急時対応、施設管理運営の全てにおいて、有資格者を配置しました。このことにより、障がい者や地域の方を中心としたお客様の多様なニーズにお応えするとともに、安心してご利用いただけるように努めました。</p> <p>○研修</p> <p>法人が実施する法人内研修に参加し、障害に関する専門的な知識を深めました。また、全職員に対し、各種マニュアルを基に施設内研修を実施し、特に、緊急時対応については確認・徹底しました。さらには、普通救命講習及びさすまたを用いた防犯教室を実施し、法人全体で緊急時に迅速に対応できる体制を整えました。施設外研修として、上級障がい者スポーツ指導員養成講習会に参加し、新たに資格を取得するとともに、地域で開催される様々な研修会に可能な限り参加し、知識を深めました。学んだ内容については、施設に持ち帰り、再度施設内研修として実施し、全職員で共有しました。</p> <p>○その他</p> <p>勤務時間が異なるため、日中勤務者は毎日ミーティングを実施するとともに、夜間勤務者には引き継ぎノートを作成し、報告・連絡・相談の徹底を図りました。</p>	A	<p>人員配置については、仕様書に定められている基準以上の人員が配置されており、スポーツ指導員の資格など事業に関係する各種資格を有しています。また、役職に必要な新しい資格を取得するなど専門的な指導体制がなされています。職員研修も施設内外を問わず、法人内研修に参加し、障がい者に関する知識を得ています。</p>
管理運営業務	A	<p>除草については、清掃委託業者が実施するとともに、職員も随時実施しました。清掃業務については、全職員が出勤後・退勤前の簡易清掃を徹底するとともに、毎月第2月曜日を館内清掃日とし、気持ちよくお客様をお迎えするように心掛けました。業務基準が示されている事項については、それに基づいて確実に実施しました。業務基準以上の事項についても積極的に実施しました。特に、障がい者団体の活動については、ロビーに物品販売スペースを可能な限り確保し、お客様にも喜んでいただいています。</p>	B	<p>美化清掃について、仕様書の基準以上の業務を実施し環境整備に努めています。また、日頃より整理整頓・用具点検を行い備品の安全管理に注意しています。その他の業務についても、仕様書の基準以上の量を積極的に実施しています。</p>
利用業務	A	<p>施設の利用調整・受付等の業務については、基準に基づき適切に実施しました。利用促進については、目標を達成することができましたが、さらに多くの障がい者の方が参加できるような事業を展開していきたいと思っていますので、各イベント終了後、参加者を対象にアンケートを実施し、その結果をもとに、随時見直しをしていきたいと思っています。また、平成29年度は開館30周年記念イベントを開催予定ですので、さらなる利用促進に努めたいと思います。宣伝広報業務については、館内掲示板・法人ブログを活用し、随時情報を提供・更新することにより、イベント参加や障がい者活動の周知に繋がりましたので、継続していきたいと思っています。誘致活動業務については、各イベントに積極的にご協力させていただくことにより、多くの障がい者団体の活動を誘致しました。</p>	A	<p>利用促進に関する目標をすべて達成しています。愛顔つなぐえひめ大会の練習による利用者増も理由の一つですが、今後もこの値を維持できるよう努めてください。自主企画イベントも目標を大きく上回っており利用が落ち込む夏場の利用促進が功を奏しています。今後も障がい者の健康増進を図るとともに社会参加の促進につながる利用を期待しています。</p>
その他業務	A	<p>各種マニュアルの作成・研修を積極的に実施し、災害時・緊急時に迅速かつ正確に対応できる体制づくりに努めました。また、障がい者・一般ともに高齢者の利用が増加しており、体調が急変する方も珍しくありません。そのため、新規採用職員及び受講後2年を経過する職員を対象に普通救命講習を実施し、緊急時に備えました。個人情報の取扱については、職員への教育を徹底しました。当施設は災害時の広域避難所となっており、東日本大震災や熊本地震の事例を参考に、災害時における行政や地域住民との協力体制の確立が今後の必須課題及び市との協議事項として考えています。</p>	A	<p>各種マニュアルが整備されており、事務所に掲示されています。防犯体制も神奈川県相模原市の事件を受け、さすまたも用いた防犯教室にも参加しています。ケガへの応急処置もできるよう講習を受けており、避難所として指定されていることから毛布類や発電機が準備されています。</p>

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
<p>修繕業務</p>	<p>A</p>	<p>経年劣化、破損等によるものは可能な限り修繕しました。中でも、以前よりお客様よりご要望をいただいていた会議・研修室及び多目的室のカーテンを新調し、お客様にも喜んでいただいています。現在、体育室のカーテンにつきましても、お客様より修繕要望が多数挙がっていますので、これまでに今治市に要望させていただいてる体育室の照明、屋外多目的トイレ、駐車場高木撤去等と合わせて、引き続き、前向きなご検討をお願いします。新規のご要望としまして、当施設の運営委員会におきまして、駐車場の車椅子マークやラインの白線を引き直して欲しいというご要望が挙がっています。また、駐車場の舗装部分もひび割れや穴が多数発生し、中には危険な箇所もありますので、施設側としても、今治市と協議させていただきながら、できる限り積極的に修繕を実施し、安心してご利用いただけるように努めていきたいと考えています。</p>	<p>A</p>	<p>施設や設備の老朽化による故障や破損が多くなっていますが、利用者の安全、快適な利用に配慮し迅速に修繕できています。今後も計画的に対応をお願いします。</p>
<p>備品管理業務</p>	<p>A</p>	<p>お客様からご要望をいただいているものや自主事業等で内容を充実させるために必要なものは、積極的に購入しました。今後も引き続き、老朽化に伴う損傷箇所が多くなっており、修繕が難しいものは、安全性を第一に考え、積極的に購入していきたいと思えます。また、アンケート等お客様からご要望をいただいているものにつきましても、必要なものは積極的に購入していきたいと思えます。</p>	<p>A</p>	<p>各種イベント・講座などに必要な備品等について利用者の要望を把握し、積極的に購入ができています。日頃からの備品状態チェックにより事故が起こる前に対応できる体制が整えられています。今後も適切な利用ができるよう努めてください。</p>
<p>行政財産の目的外使用許可手続業務</p>	<p>A</p>	<p>自動販売機を3台設置し、お客様へ飲料水を提供しました。また、障がい者団体の活動については、ロビーに物品販売スペースを可能な限り確保し、イベント前には物品の補充をお願いしました。選挙事務の際は、選挙管理委員会の指示のとおり、適切に処理しました。</p>	<p>A</p>	<p>飲料水提供の自動販売機は、利用率が高く効果が見られます。また災害時には無料で飲料水の提供も可能となっています。ロビーでは販売スペースを確保し、障がい者団体の物品販売に協力するなど障がい者福祉の啓発と社会参加に貢献できています。今後も引き続き活動をお願いします。</p>
<p>自主事業</p>	<p>A</p>	<p>○定期講座 スポーツ教室17講座・文化講座6講座の合計23講座を開催し、申込人数は障がい者540人、一般1,536人の申し込みをいただきました。社交ダンス教室を終了したことや障がい者アーチェリー教室の定員数を25人から20人に変更(講師の目が十分に届くようにするため)したことにより、申込人数は昨年度よりも75人減(内障がい者の申込人数は29減少)しました。しかしながら、スポーツ教室については講師のご理解・ご協力はもちろん、障がい者スポーツ指導員を4名配置し、申し込み時におけるニーズの把握や情報共有に努めたことにより、障がい者の状況や能力に応じた適切なプログラムを提供することができたと考えています。また、教養文化趣味講座についても、講師や受講者が障がい者に対するご理解・ご協力をいただき、障がい者の方が受講しやすい雰囲気づくりに努めていただいております。社交ダンス教室に代わる講座として、平成29年度よりヨガ教室を新規に開催予定です。</p> <p>○不定期講座 前回好評であったチャレンジ教室をお客様のご要望に応じて内容を一部変更して開催しました。今回も対象は障がい者に限定しました。中でも、書道教室は回数を増やして欲しいというお声を多数いただいております。平成29年度はチャレンジ書道教室として、単発から短期講座へ移行して開催予定です。また、夏場の施設利用促進を目指し、冷房設備のある会議・研修室を活用して夏期講座を開催しました。アンケート等によるお客様のご要望を参考にしながら、内容や開催時間は定期講座と変化を持たせました。とても好評でしたので、平成29年度も夏期講座を開催予定です。</p> <p>○イベント 今年度は愛顔つなぐえひめ大会に繋がる大会及びイベントを目指して内容を計画しました。交流はもちろんですが、愛媛県の選手やチームのレベルアップを図るために、県外から選手やチームをお招きし、強化試合を行いました。また、愛顔つなぐえひめ大会へのボランティアのご協力や観戦(応援)のご協力をいただけるように、施設利用者をはじめ、地域の方々へのイベント周知に力を入れました。その結果、障がい者はもちろん、一般の方にも多数ご参加いただくことができ、障がい者スポーツについて知っていただくことができました。平成29年度はいよいよ愛顔つなぐえひめ大会の開催年であり、サン・アビリティーズ今治にとっても開館30周年という節目の年でもありますので、お客様の声をお聞きしながら、計画・実施し、還元していきたいと考えています。</p> <p>○その他 講座・イベントともに、当初の事業計画と変更する場合は、その都度、市と協議し、アドバイスをいただきながら、適切に実施しました。</p>	<p>A</p>	<p>安全面を配慮し、アーチェリー教室の定員数を減らすなど利用者の安全とサービス提供のバランスを考えながら自主事業を行っています。また、暑さで利用が減少する夏場の施設利用を促進するため、冷房設備のある会議室・研修室を活用した夏期講座は評価できます。このことが利用者数の目標達成につながっていると考えます。各講座について、利用状況やアンケートを勘案し継続や廃止などの判断もできています。</p>

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
地域団体との連携	A	<p>イベントの開催においては、愛媛県アーチェリー協会・四国車椅子バスケットボール連盟をはじめ、多くの関係団体の皆様のご協力をいただきました。特に、2017年の愛顔つなぐえひめ大会が間近に迫り、愛媛県障がい者スポーツ協会をはじめ、県レベルでのご協力をいただきました。また、地域に福祉の輪を広げるため、毎年近隣の小学校にご協力をいただき、福祉体験を実施しています。さらには、イベント時において、今治市内の高等学校や今治明德短期大学等の学校に快くご協力をいただき、少しずつではありますが、障がい者の活動への理解や福祉の輪が地域に広がっていると実感しています。</p>	A	<p>イベント実施時の各スポーツ団体、障がい者団体及び市内の学校関係との連携も取れています。特に学生のイベントへの協力は障がい者理解を深めるとともに、将来の障がい者を支える社会づくりにも繋がりますので、引き続き交流をお願いします。</p>
利用者アンケート	A	<p>イベントの終了後に参加者(団体)にアンケートを実施しました。毎回実施している全体的な項目についてのアンケートは、今治市が同様のアンケートを実施したため、指定管理者としては実施しませんでした。良かった点・改善点を真摯に受け止め、次回に活かしたいと思います。スタッフの対応については、どのイベントでも満足していただいておりますので、より配慮のある対応を心がけていきたいと思っております。来年度もアンケートを実施し、活用していきたいと思っております。</p>	A	<p>以前は参加書類の中に同封してアンケート配布していましたが、今年度は昼食時に配ることで確実に目を通してもらい、直接回収することで回収率を上げています。アンケート評価は利用者の生の声を聞くということで、大切なものです。よりよいサービスの提供をお願いします。</p>
事故・苦情	A	<p>定期講座や自主活動中のケガが多数発生しているため、定期講座の講師・利用団体の代表者に準備運動の徹底を図り、ケガの予防に努めていただきました。また、職員は発生したケガや起こりうる事故について話し合う機会(リスクマネジメント)を作り、予防に努めました。事故が発生した場合に迅速な対応ができるように、全職員に緊急時対応について研修を実施するとともに、対象者(新規採用職員及び受講後2年経過する職員)には普通救命講習を実施しました。お客様からいただいたご意見については、真摯に受け止め、全職員で共有し、早急に対応しました。今後は、お客様が気軽にご意見・ご要望を職員に相談できる雰囲気づくり・環境づくりに努めていきたいと思っております。なお、平成29年度につきましては、月1回サン・アビ通信を発行予定ですので、ご意見・ご要望への対応等を通信誌を通して公表していきたいと思っております。</p>	B	<p>体育施設であるため、運動に伴うケガが多く見受けられます。定期講座について、指導に当たる職員が注意情報共有できていますが、職員内にとどまらず利用者側にも過去にどのようなケガがあったかを伝え共有することで、さらなるケガの予防に努めてください。自主活動中のケガについても同様に、指導する側だけの理解だけでなく指導される側の理解も求めるよう引き続き指導をお願いします。ケガ発生後の対応はしっかりなされています。安全には十分注意し、施設運営をお願いします。</p>
指定管理者の経営状態			<p>貸借対照表、正味財産増減計算書については、法令及び定款に従い、適正に作成されていると認められました。指定管理者の経営状況については、財務諸表から割り出した経営分析指標において、特に気になる数値はなく、指定施設の管理を安定して行う物的能力を有していると認められました。</p>	

総合コメント

施設利用者は年々増加し、今年度は目標達成となっております。愛顔つなぐえひめ大会の影響もありますが、サービス向上やイベント・新規講座の開設など職員の努力によるところも大きいです。施設や設備もこまめに点検し、安全管理が十分になされていますが、体育施設であるためケガとは無縁ではられません。ケガの発生の予防に努めてください。本施設は今治市で唯一の障害者文化体育施設です。障がい者の福祉の増進を図り、健常者との交流をさらに深めてください。